

岩手の生協の今をお伝えする

岩手の生協

VOL.62 2023.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第58期通常総会は、全議案を満場一致で採択



特集

岩手県生協連 第58期通常総会報告

～ 協同・助け合いの輪を広げて誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりを
すすめ、平和と人権、持続可能な地球環境や安全・安心な食・食料を守ろう ～

戦争させない政治と核兵器廃絶を求めて

～ 憲法を守り・生かし、日本の核禁条約署名・批准を求める取り組み～

■会員生協トピックス

- ・岩手大学生協
- ・大船渡市役所職員生協

■岩手県生協連トピックス

- ・「アルプス処理水海洋放出反対署名」第3次提出実施
- ・劇場版「荒野に希望の灯をともし」上映会報告
- ・フードテック学習会、岩手県消費者大会開催のお知らせ

岩手県生協連 第58期通常総会を開催しました

「協同・助け合いの輪を広げて誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりをすすめ、平和と人権、持続可能な地球環境や安全・安心な食・食料を守る」

6月22日、第58期（2023年度）通常総会を開催しました。総会では、第9次中期計画の3年目としてフードドライブや学生食料支援など人によさしい地域づくりや、平和・憲法を守り核兵器廃絶やアルプス処理水海洋放出反対などの運動をすすめた「2022年度事業・決算報告」、誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりや、平和や人権、環境・地域社会・食や食料などを守る運動を重点課題とする「2023年度事業計画・予算」など、5つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。



《今年度の取り組みの重点》

①貧困・格差の実態を知る学習
や相互扶助の取り組みの発展②平和な社会は戦争や軍拡ではつくれないこと、原発に頼らない持続可能な環境にしていくための学習と運動③食料や農林漁業を守り食品表示など消費者の選択の権利を守る学習の強化④社会保障のあり方、税金の使われ方への関心を高める運動。

《山口発言（要旨）》

若い世代の支援と参画を県連と強化
いわて生協 小山田緑代議員



コロナ禍での組合員の声を受け、ほぼ全店舗でフルセルフレジを導入。43%の利用をいただ

いた。宅配事業は、店舗で商品を受け取れるコープステーションを仙北、一関で開設。コープ共済は、コロナ対応で約1.6倍の支払件数でお役立ちとなっている。環境活動では事業でのCO2排出量を2013年度比で67%削減のほか、食品トレイ・紙パック・ペットボトル等リサイクルやレジ袋利用節約等に取り組み、効果を上げている。また生活困窮者・子ども食堂等支援としてフードドライブに取り組み、寄せられた商品、贈呈先共に昨年度より増加した。

特に若い世代・子育て層への働きかけ強化を目標に、昨年度から「さらさら応援隊」をスタート。地域の子育てサークル等へ出向いて生協商品やサービスをお知らせし、コープの離乳食・幼児食である「コープさらさらステップ・きさらキッズ」等を配布。「気にな

なった商品を試せてうれしい」「子ども向けだけど大人でもおいしい」等の声をいただき、大変好評。「ハピママコープ」も各地で開催し、親子970組の参加があった。

今年度は第10次中期計画最終年度。年度初めにベルフ向中野がオープンし、低めの商品棚や子育て商品を1か所に集める等、工夫。敷地内に「無印良品」の店舗もオープンし話題を集めた。

宅配では子育てサポート値引きを12歳まで延長、夕食宅配は10周年記念企画を開催する。また、ピースアクションinオキナワ・ヒロシマに4年ぶりに代表派遣する等、平和への取り組みも強化する。

県内ではコロナ禍の影響に加え、出生数も急激に減少。県連とも協力し、若い世代への支援や活動への参加呼びかけ等、働きかけを更に強めていきたい。

自給率向上や脱原発等の取り組み 生活クラブ生協 四戸美恵代議員



国内自給率向上、ローカルSDGsの取り組みのひとつとして、一関管内で栽培した大豆を使い、自前工場で製造した豆腐利用に取り組んでいる。大豆は播種前契約を行い、無駄なく食べきる利用結果を行っている。昨年度は、大豆栽培について学習。収穫前の圃場周辺雑草が作業の妨げになっていたことを知り、「援農」「生産する消費者運動」のひとつとして生産者と組合員で草刈作業を行った。

「脱原発」「脱炭素」を掲げ、生活クラブ全体でエネルギー自給と供給に取り組んでいる。全国に発電所があり、岩手には「一関市民なのはなソーラー2号発電所」がある。「生活クラブでんき」として供給、再生可能エネルギー100%の電気供給を目指している。

また、昨年度は「35周年まつり」を開催。生産者との交流会、三陸提携生産者の物販、組合員活動や個人の趣味発表コーナーを設け、大勢の組合員参加で盛り上がった。

た。コロナ禍で組合員活動が弱くなったので、会って、話して、共感することをめざし、取り組んでいく。

班や健康活動の大切さについて 盛岡医療生協 佐々木徳司代議員



4月に尾形文智前理事長が急逝。動揺したが、悲しみを乗り越え、医療、福祉を維持・発展させていくことこそ供養になると切り替え、活動を邁進している。

コロナ禍ではあったが、黙って家にいればフレイルが心配。少数の集まりなら、と休むことなく活動。「班があつたから医療生協として乗り切ることができた」と、参加者は前年度比246%、のべ7,300人になった。

今年度方針は、T・T・F（楽しく、つながり、フレイル予防）に取り組み、班活動、地域訪問で新たなつながりづくりを進め、共感を広げ、誰もが健康で居心地よく暮らせるまちづくりをめざす。取り組みのひとつが「健康チャレンジ」。大阪は府生協連全体で取り

組んでおり、集約数は当生協の10倍。岩手でも生協連全体で取り組んでほしい。目的は決して集約数向上ではなく、多くの県民が健康で長生きすること。リーフレットも一新し、二次元コードで申込・報告ができたり、チャレンジ項目説明も閲覧できるようにした。

被災地上映会や上映者育成等について みやこ映画生協 櫛桁一則代議員



劇場版「荒野に希望の灯をともし」は素晴らしい作品で、当生協でも上映した。希望があれば、県内どこでも上映に行く。

昨年、地域上映会を行い、ウクライナが舞台の「ひまわり」等を上映。東日本大震災以降行っている被災地上映会も77回開催。2,563人の方に映画を届け、累計では1,126回42,483人になった。地域での上映会サポートやワークショップも行い、上映者育成の芽も出てきた。

昨年は「すずめの戸締り」「スラムダンク」「ワンピース」等メガヒット作品に恵まれ、経営的によかったが、ヒット作以外にも素晴らしい映画が多くある。当生協は、自由と多様性を大切にしており、イタリア・ユニセフ共同制作の「丘の上の本屋さん」等、商業的には難しい作品も地域に届けていきたい。100年前に起きた関東大震災を題材にした映画や、いわて生協宮古コップと共催で平和アニメの上映も行っていく。

貧困対策の取り組み継続強化希望 消費者信用生協 八重畑努代議員



ローン返済等家計改善や相談連等お金にかかわる相談事業と、ローンの借り換えや何かしらの理由で金融機関審査が通らなかつた方向けに、自治体提携貸付制度を活用し貸付事業を行っている。

昨年度は約1,400件の相談のうち、家計関連は約9割。コロナ禍影響は縮小傾向にあるが、物価高騰は多くの消費者の家計を直撃し借金返済ができない、または

生活費不足の相談が増加。中でも、学生を抱えた家庭の相談が多数を占める。その中で、県生協連で運営協力した学生支援や、会員生協による子ども食堂支援の取り組みは、多くの学生やその家族にとって、経済的・精神的に大きな支えとなっている。

今年度も、物価高や会社倒産件数増加等を理由に、経済的支援が必要な家庭が増えると考える。

引き続き、貧困対策の取り組みは強化していただきたい。当生協においても、相談解決ならびに貧困格差の解消、また自殺者数減少に微力だが貢献していく。お金の悩みホットラインや、定期的な相談会を行っている。お困りの方がいたらお声がけいただきたい。

子育てサポートや社会貢献について 岩手労済生協 中川博喜代議員



マイカー共済見積もり1件につき横断旗1本寄贈する取り組みを実施。昨年は10の小学校に500本、11の自治体に2,850本、いわて生協との連携では、盛岡市

山岸小学校に100本寄贈した。また、NPO法人インクルいわてと共催し、子ども食堂やリング狩りを行い、親子23人が参加。学童クラブと防災体験学習も行った。新しい取り組みとして、公式アプリも開始。利便性向上や組合員との関係性も強めていく。

組合員と顔の見える関係を取り戻す 岩手学校生協 高橋靖浩代議員



コロナ禍での入校制限が続く中、学校現場はほぼ通常に戻り、組合員である教職員は多忙に。そうした中「組合員へのくらし提案」として、新採用教職員への加入案内や、新たに共同購入Week登録を申し込んだ組合員に商品を知ってもらおうと、試食品のお届け、定期退職予定者への退職後のくらし提案など、アポイントを取りながら事業を推進した。

今年度も、「くらし提案」を合言葉に事業推進し、「多忙でチラシを見る時間がない」「注文したかったが時間がない」等の声にどのように相対して時間をつくる

か、顔の見える学校生協を取り戻せるよう工夫して取り組む。今年県内23か所で開催した地区総代会では、出席校が80%台に戻り、学校生協の状況や運営への関心、思いが感じられた。

保障サポート・生産者交流について 岩手大学生協 塚原英明代議員



住まい探しや先輩学生が対応する新入生サポートセンターを設置する等、学生生活を支える取り組みを行っている。新入生には、店舗があることやコープ共済への連携がスムーズになることから、いわて生協への加入も案内。10代の加入者が増えている。

一方、卒業予定者へは「はばたけフェア」を実施。卒業式の袴のレンタル、卒業旅行、引越等の提案と合わせ、学生相互共済は卒業後保障が切れてしまい、もしもの保障が大切な事を伝え、いわて生協の協力のもと、コープ共済たすけあい新社会人コースを紹介。今春は昨年の倍の266人が加入した。今後は過半数の加入をめざし、

社会人になっても保障が切れない取り組みを強めたい。

産地連携の取り組みでは、学生食堂で扱う米やカボチャなど農産物の産地を訪れ、農業体験や生産者と交流。コロナ禍で中断していたが今春復活し、20名が田植え体験と生産者との意見交換を実施。今後も稲刈り等で交流していく。

学生の多くは、大学で生協の存在を知る。地域生協や生産者との連携を深めながら、今後も協同組合間連携を強め、協同に共感し参加賛同する学生を広げたい。

《三〇発言への理事会からの答弁》 吉田敏恵専務理事



発言が提案への賛成意見だったため個別回答はしないが、発言に通底するのは、今のままでは事業維持できないという危機意識。組合員の中心である60代・70代の組合員がこの先利用者ではなくなり、運営参加する人も固定化したままでは存続できなくなる。若い世代の参加・利用を広めていかなければならない。県生協連も若い

世代の運営・参加を意識し、中でも一番若い世代を抱える大学生協との連携を考えていかなければ。

また、生協間コラボで加入が増えた等成果報告があり、生協同士をつなげることも意識していきたい。先日、生協間で交流を行ったところ刺激を受け、活動のヒン

トも出て盛り上がったと聞いた。もつと横のつながりをすすめ、参加層の広がりや事業の活性化に役立つよう県生協連も頑張っていきたい。

会長理事は飯塚明彦氏が重任

総会後に第1回理事会を開催し、飯塚明彦いわて生協理事長が会長理事に重任しました。



戦争させない政治と核兵器廃絶を求めて 「憲法を守り、生かし、日本の核禁条約署名・批准を求める取り組み」



見出し配信は https://youtube/312ydf_z9tE

●憲法が持つ力を確認し、自立した市民をめざそう！5・3憲法集会

岩手県生協連、岩手県消団連も幹事団体を務める「9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会」（賛同130団体）では、学習会や宣伝行動、月一回のア

ピール行進等を行っています。

5月3日は、「5・3憲法集会inいわて」を開催。WEB視聴合わせ240人が参加しました。

岩手県奥州市出身で日弁連前副会長の吉田瑞彦弁護士が、「憲法が持つ力」をテーマに講演。吉田氏は、あらためて憲法条文、特に前文や憲法の持つ価値観を見直すと、全然廢れておらず力を持っている、と説明。戦後日本が戦争せず戦死者もいないのは憲法のおかげで、「9条をまもるためには国民の不断の努力が必要。権力に付度しない『自立した市民』をめざし、学び、行動

して社会に関わろう」と訴えました。

参加者からは、「国民の不断の努力で現憲法を具体化する責務がある事を再認識」「私たちはまだ憲法の価値を実現していない、という吉田氏の言葉が心に響いた」「自立した市民は戦争させない、他者他国への想像力を豊かにする、という言葉に胸に刻み、戦争する国づくりに反対する」などの感想が寄せられました。

当日は、達増知事、矢巾町長、大槌町長のメッセージや、各政党から挨拶を頂き、会場周辺でピーパレードも実施しました。

●「新しい戦前」の中で平和を考える 金平茂紀さん講演会開催

市民アクション岩手の会では、7月23日に大船渡、24日盛岡で計132人の参加でリレー講演会を開催。元TBS「報道特集」ニュースキャスターで、ジャーナリストの金平茂紀さんをお呼びし、「いま『新しい戦前』のなかで平和を考える」というテーマでお話いただきました。

ジャーナリストとして世界各国を周ってみてきたことや、ウクライナ戦争や安倍元首相殺害事件のこと、坂本龍一さんや忌野清志郎さんらはおかしいと思うことを素

直におかしいと訴えてきたと紹介。言論や表現の自由が奪われ始め、差別や監視が強まり、ナショナリズムの高揚等、今の日本がこれまでの戦前と同じ状況にあることを訴えました。

一般市民のほか、大学生も参加。「メディアから正しいことが流されていない。情報を鵜呑みにせず、自分の意見を持つよう心がけたい」「音楽ひとつとってもメッセージが込められていることをあらためて認識。今は同調圧力で言えない空気が強いが、平和や戦争について、自分で考え行動できる大人になりたい」等の意見が出されました。



見逃し配信↓
<https://www.youtube.com/watch?v=zuS-2Wb3mBA>

●核兵器廃絶について 県選出国会議員と懇談

岩手県生協連も幹事団体を務める「日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める岩手の会」（賛同61団体）では、この1年半で集めた署名5万2千筆の思いを県選出国会議員に届けようと、6名の議員

に懇談を要請。5月28日に、横澤高徳参議院議員、6月4日に階猛衆議院議員と懇談をしました。

幹事団体や、この間署名を多く集めたいわて生協も参加。署名とともに集めた「平和メッセージ」を渡し、「核武装論が強くなる中、軍備増強はエスカレートするだけで日本を危険にさらす愚かな行為。核廃絶が進むよう一層力を尽くして欲しい」と訴えました。

横澤議員は、日本は批准すべきという署名にすでに賛同しており、さらに地元矢巾町でこの署名を100筆集める等協力的な議員です。「国のリーダーが常に冷静な人とは限らず、核兵器がある限り使われる危険と隣り合わせ。だから核廃絶しかない。しかし国会では核武装をすべきとヤジを飛ばす議員がいる等廃絶に一切動こうとしない。皆さんの切実な声を届けるため今後も頑張りたい」と答えてくれました。



「広島G7の声明は誠に残念」と横澤議員（写真右）。

階議員は、以前は核抑止力の考えも一理あるとの認識でしたが、ロシアのウクライナ侵攻で考えが変わったそうです。「ロシアは核兵器があるからウクライナに攻め込んだ。もし核兵器を持っていなければロシアは各国から反撃にあい、戦争を止めざるを得ない。核兵器を持つことが戦争を起こさせ長引かせている。ウクライナ侵攻の教訓は、核兵器は戦争抑止に全くならず威嚇に使われるということ」と述べました。

G7の広島ビジョンも、「抑止力なら核兵器を持つていいと認めていることが問題」と指摘。武器輸出三原則に続き、今度は非核三原則さえ変えられようとしている、とも。

また、政府は日米安保条約があるから核禁条約には入れないと言うが、そこから一步も進まないのはおかしいという意見に対しては、「ドイツは、核の傘にいても核禁条約締結国会議にオブザーバー参加している。日本だってできることはいろいろある。安保があるからと言ってアメリカだけに極端に追従してはだめ」と述べ、どの国とも懐疑的に付き合うことがこの難しい世界情勢の中では大切だと訴えました。



階議員（写真中央）は、「核兵器は抑止力ではなく威嚇力」。

《お知らせ》 参加無料 核禁条約批准を求める岩手の会 結成2周年集会

9月24日（日）10時～12時
盛岡市岩手教育会館多目的ホール



ゲスト／林田光弘さん
（長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員。元ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー）

◇記念講演、トークセッション実施。ライブ配信も予定。
参加締切：9月15日

大船渡市役所職員生活協同組合

大船渡市役所生協は、大船渡市役所内にある組合員470名、職員3名の小さな職域生協です。

昨年同様、イベント減等の売上減少に伴い、売店に足を運んでもらう為に何をすればいいかを考え、一人でも多くの組合員に利用していただけるよう、店舗での物販販売の情報をSNSで発信をしました。

店舗面積も小さいため通路に面したワゴンにPOPを作成し、日替わりで地元業者様から仕入れた、お弁当、焼きたてパンやシフォンケーキ、サンドイッチ、手作りお菓子を並べ販売しており、好評です。

また、当店職員がオリジナルでデザインしたポロシャツやTシャツ、クリアファイル、キーホルダー、ミニうちわも販売開始し、大船渡市のゆるキャラ、おおふなトンがベースボールユニフォームを着たデザインも大人気です。

今年は、商品注文チラシに



2022 年度実績 組合員数 488 人
事業高 38,700 千円



Twitter



Instagram

二次元コードから申込フォームへアクセスできるようにし、チラシの回覧で人に見られることなく注文できるようにしてみましたところ、いつも注文しない方の注文もありました。少しでも組合員に利用していただける店づくりは、色々なところまでできるのだと感じました。今後いろいろな企画に挑戦したいです。

岩手大学生生活協同組合

岩手大学生協では「組合員が安全で安心した学生生活を送るため」に、学生委員会が中心になって様々な取り組みを行っています。冬季期間には水道管凍結防止のSNS発信等を実施。自転車点検は、コロナの影響で4年ぶりに開催しました。

学生の約7割が実家を離れてアパート・下宿から通学しており、自転車使用は74%を占めています(学生生活実態調査より)。コープ学生総合共済で見ると、2021年度の給付243件のうち21件が、通学中や移動中などの自転車に関わる事故となっています。

学生委員会では、自転車点検で組合員が安心して自転車利用できる状態になること、そして点検を申し込んだ学生に共済の加入状況をお知らせすることで、学生自身がどんな保障に入っているか改めて確認してもらうことを目標にしました。点検は近隣の自転



2022 年度実績 組合員数 6,623 人
事業高 980,647 千円

車店に協力いただきました。4年ぶりの企画実施で苦労しましたが、2日間で149人の自転車を点検。学生からは「前輪にひびが入っていると言われ驚いた」「無料点検してもらえ助かった」といった声が寄せられました。

一方、点検した自転車の45%、68台が「修理が必要」と診断されましたが、1か月後に自転車店に確認したところ、修理に持ち込まれたのは9台に留まっており、呼びかけが次の課題です。

■劇場版「荒野に希望の灯をともす」
上映会報告

劇場版「荒野に希望の灯をともす」をすすめる岩手の会（事務局：岩手県生協連・岩手県消団連ほか11団体）では、6月18日に盛岡で上映会を開催。3回上映計856人の方に鑑賞いただきました。上映後の谷津賢二監督のトークとサイン会も大盛況でした。

また、7月1日には花巻市東和で上映。2回上映で320人が鑑賞しました。

アフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲さんの35年の軌跡を描くこの映画を観た参加者からは、「戦争では国同士の争いは解決しない。武力で平和は守れないことを再確認」「自然との共生によって人々の幸福がもたらされる、という言葉が印象的。私たちは自然の恵みを享受されて生かされていることを忘れてはいけない」「水路によって砂漠が緑の大地に変わる光景に感動。映像や中村さんの言葉にマスク越しに涙がいっぱいになりました。上映会の開催ありがとうございました。数聞かれました。

岩手の会では、今後も県内で上映運動をすすめていきます。



上映後に谷津監督（中央）を囲んで記念撮影

■アルプス処理水海洋放出反対署名
第3次提出を実施

岩手県生協連では、2021年から「アルプス処理水海洋放出に反対する署名」に取り組んできました。この署名の呼びかけ団体は、みやぎ生協・コープふくしま、宮城県漁協、宮城県生協連、福島県生協連ですが、岩手も被災県であることや、海洋放出では大きな影響を受けると考え署名に協力し、県内で4万筆を集めました。

この署名の趣旨は、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴うアルプス処理水の海洋放出を政府が決めたことに反対し、豊かな海を次世代に引き継ぐため、関係

者の理解が得られる別の方法で処分することを求めるものです。この間、全国から寄せられた約25万4千筆の署名のうち、第3次分を7月7日に経産省、東京電力に提出。岩手県生協連、いわて生協も要請メンバーとして参加しました。

今後、署名事務局は解散しますが、放出反対運動を継続しながら、風評被害対策、復興支援、廃炉の道筋を明確にして国民の意見を反映させる場の設定等、政府や東京電力に要求していく予定です。

岩手県生協連も、引き続き脱原発や海洋放出反対・中止の運動を継続していきます。



3次分の3万3千筆を提出

《お知らせ》

参加無料

どなたでも参加できます！

「フードテックは未来食なのか？」

～ゲノム編集食品・代替肉・

昆虫食を考える～



講師／天笠啓祐さん
(科学ジャーナリスト)

9月5日（火） 10時～11時50分
盛岡市プラザおでつて
3階 大会議室
参加締切／8月31日

最近、耳にするようになった「フードテック」。いずれもこれまでに食経験のない新規の「食品」で、そこにはメディアが報道しない大きな問題が潜んでいます。天笠啓祐さんが、わかりやすく解説します。（ライブ配信も予定）

■2023年岩手県消費者大会

10月24日（火） 分科会10時～11時45分 全体会13時～15時
盛岡市アイーナ小田島組☆ほる
他7階会議室使用
全体会講師／堤 未果さん（国際ジャーナリスト）
参加締切／10月17日

